料にして全體の三二・六%を占め、之れに次ぐは充塡二七%、補綴費の二二・二%である。

診療方法に依る醫療費內譯

(イ) 一般診療

種別	費用額	被保險者一人當年費用	百分率
診察料	一、八一三千円	八九六円	一三・〇%
藥治料	六、五一二	三・二一九	四六・七
注射料	五六五	二八〇	四・一
處置料	三、二六二	一・六一三	二三・四
切開	一五〇	〇七四	一・一
異物摘出	四一	〇二〇	〇・三
外傷治療	一三〇	〇六四	〇・九
物理的療法	八五	〇四二	〇・六
手術（手術以外ノ一切費用ヲ含ム）	三〇八	一五二	二・二
入院料	一、〇三六	五一二	七・四
檢査	三五	〇一八	〇・三
計	一三、九三七	六・八九〇	一〇〇・〇

(ロ) 齒科診療

種別	費用額	被保險者一人當年費用	百分率
初診料	一〇一千円	〇五〇円	六・六%
藥治料	四九四	二四四	三二・六
處置及手術料	一四	〇〇七	〇・九
拔齒料	一六三	〇八〇	一〇・七
充塡料	四〇九	二〇二	二七・〇
補綴料	三三七	一六七	二二・二
計	一、五一八	七五〇	一〇〇・〇

右は健康保險の被保險者約二百萬人に對する實績に基くものであるが、更に警察共濟組合の實績を記載せば左表の如くである。

警察共濟組合の醫療費額及其の內容

年度	醫療費	內譯						
		診察料	藥價	手術料	處置料	入院料	看護料
昭和五年度	七二、四四〇円	二六、五二七円	二六九、八二三円	五八、二六〇円	二三五、〇四七円	一六五、七三円	二六、〇七一円
	一〇〇・〇	三・四	三五・〇	七・六	二九・一	二一・五	三・四
昭和六年度	七三、六九七	一九、九二一	二五〇、六八八	五七、〇二三	二三三、八二四	一四八、六六四	二三、五一七
	一〇〇・〇	二・八	三四・七	七・九	三〇・八	二〇・六	三・二

年度	醫療費	内譯					
		診察料	藥價	手術料	處置料	入院料	看護料
昭和七年度	十三、二七 100・0	一八、六八六 二・六	二五四、四九一 三五・二	五五、一六八 七・六	二八、八一三 三・六	一四二、八六三 一九・八	二三、一〇七 三・二
昭和八年度	十五、六九一 100・0	二〇、一六一 二・七	二四九、七三〇 三三・二	六三、四三三 八・四	二一、四二四 二・八	一七四、一六九 二三・二	三二、七六四 四・四
昭和九年度	十五、五四八 100・0	二〇、三八 二・七	二四九、二三〇 三三・〇	六六、三四六 八・八	二〇一、〇八八 二六・六	一八一、六一四 二四・〇	三六、九四三 四・九
年均	三、三四、五〇三 100・0	一〇五、六九四 二・八	一、二三三、九五一 三四・二	三〇〇・二一九 八・一	一、〇八九、一〇六 二九・三	八一三、〇三三 二一・八	一四一、四〇一 三・八

備考　本表の左側の數字は百分率を示す。

右に依り醫療費の内容を見るに其の百分率は、毎年度幾分の差異はあるが大體に於て變化なく、藥價が醫療費の首位を占め處置料が之れに次いでゐる事は前表の健康保險の實績と同樣である。

四　醫療料金

(一)　一般醫療料金

一般醫療の醫療料金は、地方の事情、醫療技術の難易等に依り、一應郡市區醫師會に於て料金規定を作成して居るが、之は何圓以上何圓迄の如く或は單に何圓以上の如く大體の標準を示したものであつて之を各醫師毎に觀察すれば其の料金は千差萬別である。昭和十一年二月社會局に於て各地方（郡市區を原則とするも此の區域に依らざるものもある）醫師會規定料金並當該地方に於ける醫師が實際に一般患者から徵しつゝある診療料金に付全國道府縣をして調査せしめた結果に基き之を觀察すれば次の如くである。

初診料は全國から觀て「・五〇」として規定したるもの六六地方を算し、調査地方全數の約一九％に當り最高を占め之に次ぐは「・五〇以上」として規定したるもの三七地方である。實際料金から觀ても「・五〇」は八八地方（二五％）を示し首位にあり、之に次ぎ比較的多數を占めて居るのは「・三〇」で三三地方である。此の外適宜に定められる地方又は無料の地方も若干存する。

往診料は規定並實際料金共に最低「・二〇」より最高「・五〇—五〇・〇〇」に及び其の間實に九〇種別あり極めて區々に定められて居る。右の內規定料金の第一位を占めて居るのは「一・〇〇」で三五地方（九％）あり、之に次ぐは「一・〇〇—五・〇〇」の三四地方「・五〇」の二七地方である。之に對し實際料金は「一・

〇〇」のもの六三地方(一七%)で規定料金同樣第一位を占め「・五〇円」の六一地方「・五〇円—一・〇〇円」の二四地方の順となつて居る。而して農村に於て醫師の往診を求むるに不便なる處では料金は可成り高額となつて居る。昭和九年五月社會局農村醫療狀況實地調査に依れば、茨城縣山間部に位する某村では隣村からの往診料は一回三・〇〇円乃至五・〇〇円となつて居り、重病の際二里半離れた某町から醫師の往診を求める時は一回一〇・〇〇円となつて居る。靑森縣某村では一里離れた町から醫師を呼ぶのに一回三・〇〇円乃至五・〇〇円を要し、新潟縣某村では三十町離れた所からの往診料は普通一回三・〇〇円積雪季四・五〇円となつて居る。

內服藥は一日一劑「・二五円」として規定したるもの八四地方(二三%)を占め「・二五円以上」のもの四九地方「・二〇円」のもの二三地方である。實際料金から觀ても「・二五円」は九九地方(二七%)で第一位を占め、之に次ぐは「・二〇円」の八二地方(二二%)である。

頓服藥は規定料金「・一五円」のもの六二地方(一七%)を占め、之に對し實際料金「・一五円」のもの八一地方(二二%)之に次ぐは「・一〇円」の六一地方「・二〇円」の五五地方である。

外用藥は「・二〇円」として規定したるもの、四九地方(一三%)に對し實際「・二〇円」を徵して居る地方は一〇一地方(二八%)である。

處方箋料は規定及實際料金から觀て最低「・二四円」最高「一〇・〇〇円」迄の間に於て規定並實際共「一・〇〇円」のもの最も多く規定せるもの六二地方、實際此の料金を以て處方箋を交付して居るのは一四二地方(四三%)を占めてゐる。

以上は郡市區醫師會の規定料金及實際料金の概要であるが醫療料金は常に全部收入することは困難にして、昭和九年東京市四谷區醫師會の調査に依れば未收入割合は約一割に當り、又昭和七年岡山縣醫師會の調査に依れば市部は四谷區と同樣であるが、郡部は二割四分となつて居る。

而して一般開業醫に於ては、大體其の料金は昭和七年日本醫師會の議決に依り、一點單價を二十錢乃至五十錢として調定せられた點數計算表に基き、種々の事情を斟酌して郡市區醫師會に於て適當に定められて居るのを普通とするが、健康保險及國民健康保險類似組合等にありては、支拂を確保せらるゝ爲概して醫療料金は低廉となつて居る。例へば健康保險に於ては一般醫療は一點(例へば內服藥一日一劑)十五六錢程度であり、又簡易生命保險に於ては實際料金の二割乃至三割引、國民健康保險類似組合の內岐阜縣大湫村、愛知縣大森、熊本縣中村等は規定料金の二割引又埼玉縣越ヶ谷町、愛知縣一宮村及形埜村に於ては大體一點十五錢を以て契約して居る。

醫療利用組合に於ては產業組合中央會の調査に依れば、七二組合の內一日一劑を十五錢とせる組合最も多く二三組合あり、十錢とせる組合一四其の他二十錢以下としてゐる組合は合計二二ありて一般規定料金より低額な料金にて經營されて居る。

(二) 齒料醫療料金

日本齒科醫師會に於て昭和十一年各郡市區齒科醫師會規定料金を三十府縣に付調査せる結果に基き、料金の大體を觀察すれば次の通りである。

初診料は「五〇錢」及「一圓以上」のもの各六縣あり、最低「三〇錢」から最高「五圓」迄である。治療料は「三〇錢—一圓」のもの八縣を占め「三〇錢以上」のもの五縣で之に次ぎ、最低二〇錢最高一圓である。抜齒は「一圓—一〇圓」のもの四縣、最低「二圓—五圓」のもの四縣、最低金鈎は「二圓—五圓」のもの四縣、最低一圓五〇錢最高三〇圓程度、陶齒冠繼續は「五圓—一五圓」のもの五縣、「三圓—三〇圓」のもの三縣、最低二圓最高五〇圓である。金冠は小白齒に付ては「八圓—二〇圓」のもの五縣、「一〇圓以上」のもの三縣、最低五圓最高三〇圓程度、大白齒に付ては「八圓—二〇圓」「一〇圓—二〇圓」「一〇圓—二五圓」のもの各三縣あり、最低六圓から最高四〇圓程度迄である。充塡に付てはゴム充塡「五〇錢」のもの九縣、セメント充塡「一圓—二圓」のもの八縣、アマルガム充塡「一圓—三圓」「一圓五〇錢—三圓」のもの各六縣あり、ゴム床義齒は(一齒に付)「二圓—五圓」のもの六縣、最低一圓最高五〇圓程度である。

一般醫療料金

(一)初診料

料金種別	市部 規定料金	市部 實際料金	郡部 規定料金	郡部 實際料金	合計 規定料金	合計 實際料金
一〇錢—五〇錢	一	一	一	一	二	一
一〇—四〇	一	一	一	一	二	二
一六—五〇	一	一	一	一	二	一
二〇	一	一	一	一	二	一
二〇—四〇	一	一	一	一	二	一
二〇—五〇	一	一	一	一	二	一
二〇—一〇〇	一	一	二	四	三	三
二〇—二〇〇	一	一	三	四	三	三
二〇—三〇〇	一	一	一	一	二	一
二〇—四〇〇	一	一	一	一	二	一
三〇	一	七	三	六	三	三
三〇以上	三	二	九	五	一〇	七
三〇—五〇	三	四	七	五	一〇	九
三〇—一〇〇	二	二	四	一	六	三
三〇—二〇〇	二	一	八	一	一〇	一
三〇—三〇〇	二	一	一	二	二	三
三〇—四〇〇	一	一	一	一	二	一

料金種別	市部 規定料金	市部 實際料金	郡部 規定料金	郡部 實際料金	合計 規定料金	合計 實際料金
三〇錢—五〇錢	一	一	二	二	二	一
三〇—六〇〇	一	一	二	二	二	一
三〇—八〇〇	一	一	一	一	二	一
四〇	一	四	一	六	一	一〇
四〇以上	一	一	一	一	一	一
四〇—五〇	一	一	一	二	二	二
四〇—八〇	一	一	一	一	一	一
四〇—一〇〇	一	一	八	一	九	一
四〇—四〇〇	一	一	一	二	一	二
四〇—五〇〇	一	一	一	二	一	二
四〇—六〇〇	一	一	四	二	四	二
四〇—一〇〇〇	一	一	六	一	八	一
四五	一	一	一	一	一	二
四五—二二〇	一	一	一	一	一	一
五〇以下	一	一	二	一	二	一
五〇	一	一	二	一	二	一

(二) 往診料

料金種別	市部 料規金定	市部 料實際金	郡部 料規金定	郡部 料實際金	合料規計金定	合料實際計金
一〇〇〇錢						
一〇〇〇錢（一ヶ月有効）	一三	一三	一三	一七	一六	一〇
八〇						
八〇						
七五						
六〇						
五〇						
五〇						
五〇						
五〇						
五〇						
五〇						
五〇						
五〇						
五〇錢（半年有効）以上	一九	一五	一八	一二	一三	一〇
四五						
四五						
四五						
四五						
四五						
四五						
四五錢						
四五錢						
四五錢

料金種別	市部 料規定	市部 料實際	郡部 料規定	郡部 料實際	合計料規定	合計料實際
六〇錢—一五〇錢	一	一	四	一	一	一
六〇—三〇〇	一	一	一	一	一	一
六〇—一〇〇〇	一	一	一	一	一	一
六〇—一五〇〇	一	一	一	一	一	一
六〇—二〇〇〇	一	一	一	一	一	一
六〇—二五〇〇	一	一	一	一	一	一
七〇—一五〇	一	一	一	一	一	一
七〇—三〇〇	一	一	一	一	一	一
七五	一	一	一	一	一	一
七五—一二〇	一	一	一	一	一	一
七五—四五〇	一	一	一	一	一	一
七五—一二五〇	一	一	一	一	一	一
七五—一五〇〇	一	一	一	一	一	一
七五—二五〇〇	一	一	一	一	一	一
八〇—一〇〇	一	一	一	一	一	一
八〇—五〇〇	一	一	一	一	一	一
一〇〇以下	一	一	一	一	一	一
一〇〇	二	二	二	二	二	二
一〇〇以上	二	二	二	二	二	二
一〇〇—二〇〇	二	二	二	二	二	二

料金種別	市部 料規定	市部 料實際	郡部 料規定	郡部 料實際	合計料規定	合計料實際
一〇〇錢—三〇〇錢	一	一	一	一	一	一
一〇〇—四〇〇	一	一	一	一	一	一
一〇〇—五〇〇	一	一	一	一	一	一
一〇〇—二〇〇〇	一	一	一	一	一	一
一〇〇—二五〇〇	一	一	一	一	一	一
一〇〇—三〇〇〇	一	一	一	一	一	一
一五〇	一	一	一	一	一	一
一五〇—二〇〇	一	一	一	一	一	一
一五〇—三〇〇	一	一	一	一	一	一
一五〇—四五〇	一	一	一	一	一	一
二〇〇	一	一	一	一	一	一
二〇〇以上	一	一	一	一	一	一
二〇〇—五〇〇	一	一	一	一	一	一
二〇〇—一〇〇〇	一	一	一	一	一	一
二〇〇—一五〇〇	一	一	一	一	一	一
三〇〇以上	一	一	一	一	一	一
規定料金ノ六割引	一	一	一	一	一	一
規定料金ノ四割引	一	一	一	一	一	一
規定料金ノ三割引	一	一	一	一	一	一

(三)内服藥

三點以上	一
三點—五〇點	二
相當額	一
各自定ム	一
距離ニ依リ異ナル	一
任意	一
不體微ヲ定	一
大體微ヲ定	一
無料	一
減額	一
不明	一
合計	一

料金種別	市部 料規定	市部 料實際	郡部 料規定	郡部 料實際	合計料規定	合計料實際
八錢—五〇錢	一	一	一	一	一	一
一〇—一五	一	一	一	一	一	一
一〇	一	一	一	一	一	一
一二	一	一	一	一	一	一
一二—二〇	一	一	一	一	一	一
一二—二五	一	一	一	一	一	一
一五—二〇	一	一	一	一	一	一
一五以上	一	一	一	一	一	一
一五—一〇〇	一	一	一	一	一	一
一五—一五〇	一	一	一	一	一	一
一五—二〇〇	一	一	一	一	一	一
一五—二五〇	一	一	一	一	一	一
一五—三〇〇	一	一	一	一	一	一
一五—四五	一	一	一	一	一	一
一五—五〇錢	一	一	一	一	一	一
二〇以上	一	一	一	一	一	一
二〇—二五	一	一	一	一	一	一

料	金	種	別	料規金定	料賃金際
	二〇〇錢	金			
	二〇〇				
	二〇〇				
	二〇〇

料	金	種	別	料規金定	料賃金際	郡部
二五	二五	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇
二五	二五	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇
一	一	一	一	一	一	一
以	以	以	以	以	以	以
三〇上	三〇	三〇	二四	二五	三〇	四〇
一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
一	一	一	一	一	一	一

料金種別	市部 規定料金	市部 實際料金	郡部 規定料金	郡部 實際料金	合計 規定料金	合計 實際料金
二四錢—二五〇錢	—	—	—	—	—	—
三〇	—	—	一	三	—	四
三〇以上	一	一	一	—	一	一
四〇—二〇〇	—	—	—	四	—	四
四五	—	—	—	—	—	—
四五—一五〇	二	二	二	二	二	四
四五—二〇〇	—	—	二	—	二	四
四五—三〇〇	—	—	一	—	一	一
四五—四〇〇	—	—	一	—	一	一
四五—五〇〇	—	—	一	—	一	一
五〇	一	五	五	二〇	六	二五
五〇以上	二	—	九	五	七	五
五〇—一〇〇	三	—	七	三	六	一〇
五〇—二〇〇	二	—	二	五	四	一〇
五〇—三〇〇	一	—	六	一〇	九	一
五〇—四〇〇	三	—	六	六	七	一
五〇—五〇〇	一	—	二	—	二	—
五〇—一〇〇〇	二	一	一	一	三	一

料金種別	市部 規定料金	市部 實際料金	郡部 規定料金	郡部 實際料金	合計 規定料金	合計 實際料金
六〇	—	—	—	—	—	—
六〇以上	一	一	一	一	二	一
六〇—一〇〇	—	—	—	—	—	—
六〇—二〇〇	五	—	一	五	一四	一
六〇—三〇〇	—	—	二	二	二	二
六〇—四〇〇	—	—	一	一	一	一
六〇—五〇〇	二	—	九	—	九	—
七〇—一〇〇	—	—	七	—	一	二
七五	—	—	—	—	—	—
七五—二五〇	—	—	一	—	一	二
七五—三〇〇	—	—	一	—	一	二
七五—五〇〇	一	—	一	—	一	一
八〇	—	—	—	—	—	—
一〇〇	一六	四二	六二	一〇〇	三〇	一四二
一〇〇以上	八	一	二二	一〇	三〇	一
一〇〇—一五〇	—	一	四六	一〇〇	三〇	一
一〇〇—二〇〇	六	一	二六	二	二	一七

料金種別	市部 規定料金	市部 實際料金	郡部 規定料金	郡部 實際料金	合計 規定料金	合計 實際料金
二五〇	—	—	—	—	—	—
二五〇—六〇〇	一	一	一	一	二	一
三〇〇	二	二	七	二	九	二
三〇〇—五〇〇	一	一	一	一	三	二
無料又ハ一圓	—	—	—	—	—	—
減額又ハ無料	—	—	—	—	—	—
無料	—	—	—	—	—	—
不明	二	—	—	—	二	—
合計	九三	九三	二三七	二三七	三三〇	三三〇

二、齒科診療料金

種別	料金	府縣	料金	府縣	料金	府縣
初診	五〇錢—一〇〇錢	六	五〇錢—二〇〇錢	—	三〇錢—五〇錢	二
	三〇—一〇〇	五	一〇〇	—	五〇—	二
	五〇—一〇〇	三	三〇	一	一〇〇—三〇〇	一

種別	料金	府縣	料金	府縣	料金	府縣
治療	三〇錢—一〇〇錢 三〇以上 二〇—五〇 三〇—五〇	八 五 四 四	三〇錢 二〇—三〇 二〇—一〇〇 二〇以上	三 一 一 一	四〇錢 四〇以上	一 一
抜歯	一〇〇—一〇〇〇 五〇—五〇〇 一〇〇—三〇〇 五〇—八〇〇	四 三 二 一	五〇—一〇〇〇 七〇—一〇〇〇 八〇—五〇〇 八〇—一〇〇〇	一 一 一 一	一〇〇以上 一〇〇—八〇〇 一〇〇—一五〇〇 三〇〇—三〇〇〇	一 一 一 一
鈎金	二〇〇—五〇〇 一五〇—一五〇〇 二〇〇—三〇〇〇 二五〇以上 三〇〇—一〇〇〇 三〇〇—一五〇〇 一五〇—三〇〇 一五〇—一〇〇〇	四 三 三 三 二 二 一 一	二〇〇—三〇〇 二〇〇—三〇〇以上 二〇〇—三〇〇〇 二五〇—三五〇以上 二五〇—五〇〇 二五〇—三〇〇〇 三〇〇—五〇〇 三〇〇—七〇〇	一 一 一 一 一 一 一 一	三〇〇—二〇〇〇 三〇〇以上 三五〇—二五〇〇 四〇〇—一五〇〇 五〇〇 五四〇〇 五〇〇	一 一 一 一 一 一 一
冠鋳陶	五〇〇—一五〇〇 三〇〇—三〇〇〇 三〇〇—二〇〇〇 三〇〇—五〇〇〇	五 三 二 二	三〇〇—一〇〇〇 三〇〇—一〇〇〇以上 三〇〇—一五〇〇 四〇〇—八〇〇以上	一 一 一 一	六〇〇—二五〇〇 八〇〇—二〇〇〇以上 一〇〇〇—二〇〇〇 一〇〇〇—二〇〇〇以上	一 一 一 一
鑄造	五〇〇—二〇〇〇 八〇〇—四〇〇〇 二〇〇—一五〇〇	二 二 一	四〇〇—二〇〇以上 四〇〇—一五〇〇 六〇〇—一〇〇〇	一 一 一	二〇〇—二五〇〇 ナシ	一 一
冠金歯白小	八〇〇—二〇〇〇 一〇〇〇以上 六〇〇—一五〇〇 六〇〇—二〇〇〇 八〇〇—一二〇〇 八〇〇—一五〇〇	五 三 二 二 二 二	八〇〇—三〇〇〇 一〇〇〇—二〇〇〇 五〇〇以上 六〇〇以上 七〇〇—一五〇〇 七〇〇—三〇〇〇	二 二 二 一 一 一	七〇〇以上 八〇〇—一〇〇〇 八〇〇—一四〇〇 八〇〇—二五〇〇 一〇〇〇	一 一 一 一 一
冠金歯白大	八〇〇—二〇〇〇 一〇〇〇—二〇〇〇 一〇〇〇—二五〇〇 八〇〇—三〇〇〇 一二〇〇—二〇〇〇 一二〇〇以上 六〇〇以上	三 三 三 二 二 二 一	六〇〇 六〇〇—二〇〇〇 七〇〇以上 八〇〇以上 八〇〇—三〇〇〇 九〇〇—三〇〇〇 一〇〇〇—三〇〇〇	一 一 一 一 一 一 一	一〇〇〇—四〇〇〇 一〇〇〇以上 一二〇〇 一二〇〇—二五〇〇 一二〇〇—三五〇〇 一五〇〇—三〇〇〇 一五〇〇以上	一 一 一 一 一 一 一
填充ムヨ	五〇 五〇—一〇〇 五〇以上	九 八 四	三〇—五〇 五〇—八〇 一〇〇	二 二 二	三〇以上 四〇—一〇〇 ナシ	一 一 一
トンメセ充填	一〇〇—二〇〇 七〇—二〇〇	八 四	一〇〇—三〇〇 八〇—三〇〇	四 二	一〇〇—一五〇 一〇〇	二 二

種別	料金	府縣	料金	府縣	料金	府縣
シンダゼ塡充ト	一五〇—三〇〇錢 一五〇以上	二 二	五〇錢以上錢 七〇—一五〇	一 一	八〇錢—二〇〇錢 一〇〇—五〇〇	一 一
ムガルマア塡充	一〇〇—三〇〇 一五〇—五〇〇 一〇〇—五〇〇 一五〇—三〇〇	六 六 五 四	一五〇—一三〇〇以上 一〇〇以上 一五〇 一五〇以上	二 一 一 一	二〇〇—五〇〇 八〇—二〇〇 八〇—三〇〇 三〇〇—五〇〇	一 一 一 一
(付ニ曲一)横幾床ムチ	二〇〇—五〇〇 二〇〇—一〇〇〇 一〇〇—五〇〇 二五〇—五〇〇 二〇〇—四〇〇 一三〇〇—八〇〇 一五〇—三〇〇	六 三 二 二 二 二 一	一五〇—四〇〇 二〇〇 二〇〇—三〇〇 二〇〇—五〇〇以上 二〇〇—六〇〇 二〇〇—八〇〇 二〇〇以上	二 二 二 二 一 一 一	二五〇—一〇〇〇 三〇〇—五〇〇以上 三〇〇—三〇〇〇 五〇〇—三〇〇〇 五〇〇—五〇〇〇	一 一 一 一 一
兼服内	二五 二五以上 三〇 二〇—五〇 一五—三〇	六 四 四 三	二五—五〇 三〇以上 一五—二五 二〇 二〇—三〇	二 二 一 一 一	三〇—五〇 三〇—一〇〇 二五—一〇〇	一 一 一
頓服	二〇 一五 二〇以上 一〇—二〇 一五—三〇	六 五 五 二 二	二〇—五〇 一〇—三〇 一五以上 一五—二〇 一五—二五	二 一 一 一 一	一五—五〇 二〇—一〇〇 三〇—一〇〇	一 一 一
漱嗽合	三〇 三〇以上 三〇—五〇	一〇 五 三	一五—五〇 二〇—三〇 二五	二 一 一	三〇—一〇〇 四〇以上 五〇以上	一 一 一
漱法	三〇 三〇以上 三〇—五〇 一五—五〇	二 五 三 二	三〇—一〇〇 二〇—三〇 二〇—五〇 二五	二 一 一 一	二五—五〇 五〇以上 六〇以上	一 一 一
篶方處	一〇〇 五〇—一〇〇 五〇以上 五〇	八 七 四 三	一〇〇以上 二〇—一〇〇 三〇—五〇〇 五〇—二〇〇	三 一 一 一	五〇—三〇〇 一〇〇—三〇〇	一 一
料帶細	五〇以上 五〇 八〇以上	八 二 二	五〇—一〇〇 五〇—二〇〇 三〇—一〇〇	二 二 一	三〇—二〇〇 五〇—五〇〇	一 一

種別	料金	府縣	料金	府縣	料金	府縣
口内炎消炎手術	ナシ 五〇錢—五〇〇錢 一〇〇以上 五〇—一五〇〇 五〇—五〇〇〇 一〇〇	六 三 三 二 二 二	一〇〇錢—一〇〇〇錢 三〇—五〇〇 三〇—三〇〇〇 五〇 五〇—七〇〇 五〇—一〇〇〇	二 一 一 一 一 一	五〇錢—三〇〇〇錢 一〇〇—五〇〇〇 一〇〇—一〇〇〇〇 一五〇以上 四〇〇—七〇〇以上	一 一 一 一 一

第四部 救療事業概況

第四部　救療事業概況

一、はしがき

現在我が國に於ける救療事業は、國の事業としては救護法に依る醫療救護及昭和七年度以降臨時的に施設せられつゝある時局匡救醫療救護事業を一般的のものとし、其の他特殊的救療として精神病、結核、癩、トラホーム又は花柳病等に對し之が豫防を施すの必要よりして此等の豫防法に基き救療を爲す場合がある。尙軍人の一部及び其の家族等に對し軍事救護法に依り醫療保護を爲す場合があるが、特殊的のものであり且之が適用を受くる者極めて僅少である。又公私團體等に依り爲されつゝある救療事業としては、恩賜財團濟生會の事業が最大規模のものであり、其の他公設又は私設に係る診療所、施療院若は委託診療に從事する者等がある。依て本項に於ては、先づ全國に於て救療を必要とする者及之に對し救療を受けつゝある者の概數を觀察し、次に救護法及時局匡救醫療救護施設に依る事業狀況を略記し且私的施設の代表的存在たる濟生會の事業を概說し、以て我が國救療事業の現況を概觀せんとするものである。

二、救療を要する者

全國に亘り救療を必要とする者の數を正確に知ることは甚だ困難な業であるが、次の衛生局調査に係る概數に依り其の大體を知ることが出來る。

要救療者調（昭和十年三月三十一日現在）

内務省衛生局

道府縣別	總人口	第一種 人口	第一種 百分比	第二種 人口	第二種 百分比	其ノ他 人口	其ノ他 百分比	計 人口	計 百分比
北海道	二、八八六、五三二人	二〇三、四八一人	七・〇五%	一三三、一二三人	四・二三%	一四六、五一七人	五・〇八%	四七二、一二一人	一六・三六%
青森	九〇〇、七八〇	一、〇九〇	一・二三	四二、五〇七	四・八三	二、七三	二・七三	七九、一六五	八・七九
岩手	一、一〇四、一三二	八、七九八	〇・八〇	三二、一〇四	二・九一	一八、四〇五	一・六六	五九、三〇七	五・三七
宮城	一、一六〇、四六三	一、五〇九	〇・九九	五八、四〇五	五・〇三	三、四六一	二・七一	一〇一、三二五	八・七三
秋田	九五一、五四六	一四、二七五	一・五一	四七、五七八	五・〇〇	二七、八七八	二・九三	八九、八八三	九・四四
山形	一、一三一、一三八	一八、五一七	一・六五	五一、一〇五	四・五六	三一、三七五	二・八〇	一〇一、〇九七	九・〇一
福島	一、五六九、四二七	一三、〇一〇	〇・八三	六八、五五四	五・〇一	四一、一〇八	二・六三	一一三、七八一	八・四六
茨城	一、五〇七、六二八	七、八二七	〇・五三	五八、一四九	三・八六	二九、六九三	一・九七	九五、六七九	六・三五
栃木	一、一三一、四二六	二、九七二	〇・二六	二〇、七四四	一・八五	一〇、六七三	〇・九五	二四、三六八	三・〇六
群馬	一、二九九、四五八	五、九六六	〇・四八	三二、六七〇	二・一〇	一六、九一八	一・三六	五四、五一四	四・二九
埼玉	一、五一〇、八〇〇	九、〇〇三	〇・五九	三七、二九九	二・四七	一八、三〇三	一・二一	六五、二七五	五・一〇
千葉	一、四八〇、二四〇	三、〇四七	〇・二一	三七、八四八	三・三七	一三、七〇〇	〇・九三	五四、一四六	四・二九
東京	五、九六六、五七七	三六、〇一四	三・八一	一九、四八八	一・八五	一二四、六二四	二・二七	一七〇、二三五	一〇・八六
神奈川	一、四三、〇一九	一〇、八六六	〇・六三	六〇、六六〇	三・三七	三三、一三九	一・八六	一〇四、〇八三	一〇・九九
新潟	二、〇四、四六八	二八、五三四	一・三八	一二二、二三	五・四一	六三、三三六	三・〇五	二〇四、〇八三	九・八四
富山	八六五、七八〇	四、一四七	〇・四八	二五、〇七九	二・九〇	一三、一五一	一・五三	四二、三七七	四・九〇
石川	七五三、六三三	二、一二五	〇・二七	三、八一六	〇・四八	二、六六八	〇・三三	二五、〇七九	三・一〇
福井	六三五、二三三	一、七三一	〇・二七	九、四四八	一・四九	一、四四〇	〇・七九	一一、六六九	一・七三
山梨	六九九、一四三	八、九七九	一・二九	三二、九七七	三・二八	二四、二四一	二・四八	四〇、一四一	五・〇三
長野	一、五五一、一八三	九、六五四	〇・五五	五〇、二四一	三・二六	一、七三	〇・〇四	五〇、〇六三	五・〇六
岐阜	一、二七一、九一九	四、六七五	〇・三七	三〇、二五六	二・五五	一、七三	〇・〇四	三〇、二六一	二・五〇
靜岡	一、八九七、七一〇	八、九一〇	〇・四七	五五、二七五	三・〇六	二、九二	〇・〇四	五〇、〇六三	三・二六
愛知	二、九一四、二一一	一五、二一一	〇・五三	二五、二八七	〇・八七	〇・八七	〇・〇四	二五、〇六三	一・〇四
三重	一、八一、八四	一、三一一	〇・九六	四九、三〇〇	四・一七	四・一七	二七、二七四	四九、三〇〇	四・一七
滋賀	七一七、一六八	六、一四五	〇・八五	二六、二六七	三・六一	一・七三	一四、五八五	二六、二六七	三・六一
京都	一、六九九、一〇〇	一八、四二一	一・一〇	二八、九一四	一・七三	一・八三	二二、三〇〇	一八、九一四	一・七三
大阪	三、九三五、四五三	二七、二二七	〇・六九	七二、〇八〇	一・八三	一・一四	四四、六八三	七二、〇八〇	一・八三
兵庫	二、六三五、八九四	三三、一四三	〇・四九	五〇、五八四	一・九二	一・〇九	二八、六七六	五〇、五八四	一・九二
奈良	六一六、六六六	四、一二九	〇・六七	二〇、一三六	三・二七	一・七七	一〇、九二三	二〇、一三六	三・二七
和歌山	八六六、五四八	二八、四三五	三・二八	四三、〇四八	四・九七	三・一六三	三三、一六三	四三、〇四八	四・九七
鳥取	四八九、二六六	六、六八八	一・三六	一四、八五〇	三・〇四	九、六九二	一・九八	三〇、四三二	三・〇四
島根	七九五、三〇二	八、三九九	一・〇七	一九、三八八	二・四八	二、〇四	一・六〇	二三、〇四〇	二・三三
岡山	一、二九五、二三九	九、四五二	〇・七三	四九、二三九	三・七九	二六、三三八	二・〇四	八四、九三二	六・五六
廣島	一、三七六、八五二	二、四四一	〇・二三	三三、六五〇	一・九四	一、九五	〇・九三	五二、一八六	三・〇〇
山口	一、二七、二三〇	四、〇一〇	〇・三四	一四、九八三	一・二八	八、五四六	〇・七三	二七、五二九	二・三五
德島	七三、〇八九	五、四九一	〇・七一	一七、七八四	二・二〇	一〇、四七三	一・三六	三三、七八八	四・二七
香川	七五〇、一八六	六、二三七	〇・八三	一六、一六五	二・一五	一〇、〇八〇	一・三四	三三、四八二	四・三三

道府縣別	總人口	第一種 人口	第一種 百分比	第二種 人口	第二種 百分比	其ノ他 人口	其ノ他 百分比	計 人口	計 百分比
愛媛	一、三八、七三人	七、八四三人	〇・六三%	三三、八五九人	二・六五%	一八、三三五人	一・四八%	五九、〇一七人	四・七六%
高知	七三五、一八〇	五、一九三	〇・七一	二六、九一三	三・六六	一四、四四七	一・九六	四六、五三三	六・三三
福岡	二、六四一、六六一	一五、〇六七	〇・五七	一八七、〇四九	七・〇八	九〇、九五三	三・四四	二九三、〇六八	一一・〇九
佐賀	六八〇、二六	二、九二七	〇・四三	一九、一三三	二・八一	九、九三二	一・四六	三三、〇〇〇	四・七〇
長崎	一、三三、六〇八	六、四七三	〇・四九	四一、〇八一	三・〇八	二一、二九八	一・六〇	六八、九五一	五・一七
熊本	一、三五三、九二	二、九〇七	〇・三	二四、九二四	一・八四	三三、三五四	〇・九二	四〇、三五五	二・九八
大分	一、〇二一、三九三	三、三三五	〇・三三	三二、三六二	三・一〇	一五、五七七	一・五四	五〇、一九四	四・九六
宮崎	八四四、〇一五	二、六九九	〇・三一	一〇、三四五	一・二三	五、八六〇	〇・六九	一八、八八四	二・二四
鹿児島	一、五六、六九〇	三、五六七	〇・八七	五、〇九七	三・七三	三、一四八	二・〇七	一〇三、九二三	六・六七
沖縄	五九三、〇一三	二、八八七	〇・四九	二四、五四四	四・一四	三、〇四	一・二五	二九、七八四	六・七二
合計	六七、七三、九〇九	八四四、五五五	一・二五	二、〇六五、二九一	三・〇四	一、二五、五五五	一・八五	四、一六二、四〇二	六・一五

備考
一、第一種とは疾病其の他の事由に依り生活すること困難なるもの
一、第二種とは辛うじて生活し得るも一朝事故に遭遇する場合は忽ち自活困難に陥る虞あるもの
一、其の他とは生活に支障なきも餘裕なきもの

右に對し上述の公私救療諸施設に依り實際受療したる者は左の如くである。

救療患者調（昭和九年度）

種別	人員	備考
救護法ニ依ル醫療救護	三四、七〇八人	社會局調査助産及埋葬ヲ含マズ
時局匡救醫療救護	九七四、〇二二	衞生局調査
恩賜財團濟生會ノ事業	二八〇、一六七	濟生會救療患者統計ニ依ル
其ノ他公私救療機關ノ事業	六六〇、〇〇〇	時局匡救醫療救護ニ依ルモノヲ含マズ
合計	一、九四八、八九七	濟生會推計ニ依ル

三、救護法實施狀況（救療に關するもの）

(一) 救護法に依る救護に於ける救療の地位

救護法に依る救護の種類は生活扶助、醫療、助産、生業扶助及被救護者死亡の場合埋葬を行ふ者に對して爲すことを得る埋葬費の給付である。埋葬は嚴密には救護に非ず又助産は之を救療と稱すべきものでないが、こゝには醫療の外助産及埋葬をも救療に關するものとして、此の三者に付其の實施狀況を觀察することゝした。

救護法に依る救護及び其の中救療の割合は左表の如くである。

救護法に依る被救護者調（昭和九年度）社會局調査

救護種類	居宅		收容		計		
	實人員	金額	實人員	金額	實人員	割合	金額	割合
生活扶助	一六七三人	四一四二四円	一六三五人	九八六五円	一八九七人	八〇・三%	五〇五八九円	八六・三%
醫療	(八〇〇三)	三〇六四	(一一〇三)	五三二三	(八〇〇三)	四・九	五八六六	三・六
助産	二〇五五 (三六八)	九二〇〇	(三五二)	一八四	二三五六 (四五九)	一・〇	二一〇八四	〇・三
生業扶助	四五五 (三五三)	四七四	(二一)	八	(四五六)	〇・二	四七四九	〇・一
埋葬	二六六	一七五	八三三	四九六六	八五九	三・七	五二五五	〇・九
合計	一八六六 (二〇五五)	四三六三	(二六六七)	一四二六三	(三三一〇五六)	一〇〇・〇	五六六一九三	一〇〇・〇

備考　一、「實人員」は救護件數なり（次表に付同様）
二、「實人員」欄括弧内は同一人にして二種以上の救護を受けたる者を示す（同右）

(二)　醫療、助産及埋葬狀況

救護法に依る道府縣別醫療、助産及埋葬調（昭和九年度）　社會局調査

道府縣	醫療						助産						埋葬					
	居宅		收容		計		居宅		收容		計		府縣		市町村		計	
	實人員	金額	實人員	金額	實人員	金額	實人員	金額	實人員	金額	實人員	金額	實人員	金額	實人員	金額	實人員	金額
北海道	(四四三)人	六〇六円	(四四七)人	四〇九円	一〇〇九人 (五五〇)	二〇一五円	(二三五)人	一四七円	一人	一円	(二三五)人	一四七円	二九人	二五五円	三九人	二〇〇三円	四八人	二一六円
青森	一六〇	一八四	一四〇	一三四	三〇〇	三一八	一	一	—	—	一	一	一	一	一	一	一	一
岩手	一四〇	一四七	一四〇	一四七	二八〇	二九四	一	一	—	—	一	一	一	一	一	一	一	一
宮城	一四〇	一四七	一四〇	一四七	二八〇	二九四	一	一	—	—	一	一	一	一	一	一	一	一
秋田	一四〇	一四七	一四〇	一四七	二八〇	二九四	一	一	—	—	一	一	一	一	一	一	一	一
山形	一四〇	一四七	一四〇	一四七	二八〇	二九四	一	一	—	—	一	一	一	一	一	一	一	一
福島	一四〇	一四七	一四〇	一四七	二八〇	二九四	一	一	—	—	一	一	一	一	一	一	一	一
茨城	一四〇	一四七	一四〇	一四七	二八〇	二九四	一	一	—	—	一	一	一	一	一	一	一	一
栃木	一四〇	一四七	一四〇	一四七	二八〇	二九四	一	一	—	—	一	一	一	一	一	一	一	一
群馬	一四〇	一四七	一四〇	一四七	二八〇	二九四	一	一	—	—	一	一	一	一	一	一	一	一
埼玉	一四〇	一四七	一四〇	一四七	二八〇	二九四	一	一	—	—	一	一	一	一	一	一	一	一
千葉	一四〇	一四七	一四〇	一四七	二八〇	二九四	一	一	—	—	一	一	一	一	一	一	一	一
東京	一四〇	一四七	一四〇	一四七	二八〇	二九四	一	一	—	—	一	一	一	一	一	一	一	一
神奈川	一四〇	一四七	一四〇	一四七	二八〇	二九四	一	一	—	—	一	一	一	一	一	一	一	一
新潟	一四〇	一四七	一四〇	一四七	二八〇	二九四	一	一	—	—	一	一	一	一	一	一	一	一
富山	一四〇	一四七	一四〇	一四七	二八〇	二九四	一	一	—	—	一	一	一	一	一	一	一	一
石川	一四〇	一四七	一四〇	一四七	二八〇	二九四	一	一	—	—	一	一	一	一	一	一	一	一
福井	一四〇	一四七	一四〇	一四七	二八〇	二九四	一	一	—	—	一	一	一	一	一	一	一	一
山梨	一四〇	一四七	一四〇	一四七	二八〇	二九四	一	一	—	—	一	一	一	一	一	一	一	一
長野	一四〇	一四七	一四〇	一四七	二八〇	二九四	一	一	—	—	一	一	一	一	一	一	一	一
岐阜	一四〇	一四七	一四〇	一四七	二八〇	二九四	一	一	—	—	一	一	一	一	一	一	一	一
愛知	一四〇	一四七	一四〇	一四七	二八〇	二九四	一	一	—	—	一	一	一	一	一	一	一	一

道府縣	醫業						助産						埋葬					
	居宅		收容		計		居宅		收容		計		府縣		市町村		計	
	實人員	金額	實人員	金額	實人員	金額	實人員	金額	實人員	金額	實人員	金額	實人員	金額	實人員	金額	實人員	金額
石川	二六	二〇八〇	二四	一〇四〇	二八	二一二〇	二四	二〇八〇	—	—	二四	二〇八〇	三	二〇	三	二〇	六	四〇
福井	一三	一四四	一三	一四四	二六	二八八	一九	一四四	—	—	一九	一四四	二	一六	二	一六	四	三二
富山	九	九五	一	一〇	一〇	一〇五	九	九五	—	—	九	九五	一	一〇	一	一〇	二	二〇
長野	一四	一〇八	一	一〇	一五	一一八	一四	一〇八	—	—	一四	一〇八	一	一〇	一	一〇	二	二〇
岐阜	一三	一〇四〇	一	一〇	一四	一〇四〇	一三	一〇四〇	—	—	一三	一〇四〇	一	一〇	一	一〇	二	二〇
滋賀	一四	一〇四〇	一	一〇	一五	一一〇	一四	一〇四〇	—	—	一四	一〇四〇	一	一〇	一	一〇	二	二〇
山梨	一四	一〇四〇	一	一〇	一五	一一〇	一四	一〇四〇	—	—	一四	一〇四〇	一	一〇	一	一〇	二	二〇
宮城	一四	一〇四〇	一	一〇	一五	一一〇	一四	一〇四〇	—	—	一四	一〇四〇	一	一〇	一	一〇	二	二〇
福島	一三	一〇四〇	一	一〇	一四	一〇四〇	一三	一〇四〇	—	—	一三	一〇四〇	一	一〇	一	一〇	二	二〇
岩手	一四	一〇四〇	一	一〇	一五	一一〇	一四	一〇四〇	—	—	一四	一〇四〇	一	一〇	一	一〇	二	二〇
秋田	一四	一〇四〇	一	一〇	一五	一一〇	一四	一〇四〇	—	—	一四	一〇四〇	一	一〇	一	一〇	二	二〇
山形	一四	一〇四〇	一	一〇	一五	一一〇	一四	一〇四〇	—	—	一四	一〇四〇	一	一〇	一	一〇	二	二〇
宮城	一四	一〇四〇	一	一〇	一五	一一〇	一四	一〇四〇	—	—	一四	一〇四〇	一	一〇	一	一〇	二	二〇
福島	一三	一〇四〇	一	一〇	一四	一〇四〇	一三	一〇四〇	—	—	一三	一〇四〇	一	一〇	一	一〇	二	二〇
茨城	一四	一〇四〇	一	一〇	一五	一一〇	一四	一〇四〇	—	—	一四	一〇四〇	一	一〇	一	一〇	二	二〇
栃木	一四	一〇四〇	一	一〇	一五	一一〇	一四	一〇四〇	—	—	一四	一〇四〇	一	一〇	一	一〇	二	二〇
群馬	一四	一〇四〇	一	一〇	一五	一一〇	一四	一〇四〇	—	—	一四	一〇四〇	一	一〇	一	一〇	二	二〇
埼玉	一四	一〇四〇	一	一〇	一五	一一〇	一四	一〇四〇	—	—	一四	一〇四〇	一	一〇	一	一〇	二	二〇
千葉	一四	一〇四〇	一	一〇	一五	一一〇	一四	一〇四〇	—	—	一四	一〇四〇	一	一〇	一	一〇	二	二〇
東京	一四	一〇四〇	一	一〇	一五	一一〇	一四	一〇四〇	—	—	一四	一〇四〇	一	一〇	一	一〇	二	二〇
神奈川	一四	一〇四〇	一	一〇	一五	一一〇	一四	一〇四〇	—	—	一四	一〇四〇	一	一〇	一	一〇	二	二〇
新潟	一四	一〇四〇	一	一〇	一五	一一〇	一四	一〇四〇	—	—	一四	一〇四〇	一	一〇	一	一〇	二	二〇
富山	一四	一〇四〇	一	一〇	一五	一一〇	一四	一〇四〇	—	—	一四	一〇四〇	一	一〇	一	一〇	二	二〇
石川	一四	一〇四〇	一	一〇	一五	一一〇	一四	一〇四〇	—	—	一四	一〇四〇	一	一〇	一	一〇	二	二〇
福井	一四	一〇四〇	一	一〇	一五	一一〇	一四	一〇四〇	—	—	一四	一〇四〇	一	一〇	一	一〇	二	二〇
山梨	一四	一〇四〇	一	一〇	一五	一一〇	一四	一〇四〇	—	—	一四	一〇四〇	一	一〇	一	一〇	二	二〇
長野	一四	一〇四〇	一	一〇	一五	一一〇	一四	一〇四〇	—	—	一四	一〇四〇	一	一〇	一	一〇	二	二〇
岐阜	一四	一〇四〇	一	一〇	一五	一一〇	一四	一〇四〇	—	—	一四	一〇四〇	一	一〇	一	一〇	二	二〇
滋賀	一四	一〇四〇	一	一〇	一五	一一〇	一四	一〇四〇	—	—	一四	一〇四〇	一	一〇	一	一〇	二	二〇
山梨	一四	一〇四〇	一	一〇	一五	一一〇	一四	一〇四〇	—	—	一四	一〇四〇	一	一〇	一	一〇	二	二〇
宮城	一四	一〇四〇	一	一〇	一五	一一〇	一四	一〇四〇	—	—	一四	一〇四〇	一	一〇	一	一〇	二	二〇
福島	一四	一〇四〇	一	一〇	一五	一一〇	一四	一〇四〇	—	—	一四

救護法に依る被救護者種類別醫療、助産及埋葬人員調（昭和九年度）社會局調査

道府縣	醫療 居宅 實人員	醫療 居宅 金額	醫療 收容 實人員	醫療 收容 金額	醫療 計 實人員	醫療 計 金額	助産 居宅 實人員	助産 居宅 金額	助産 收容 實人員	助産 收容 金額	助産 計 實人員	助産 計 金額	埋葬 府縣 實人員	埋葬 府縣 金額	埋葬 市町村 實人員	埋葬 市町村 金額	埋葬 計 實人員	埋葬 計 金額
宮崎	四二人（一八）	一、五三七円	八人（三）	二九六円	五〇人（二一）	一、八三三円	六人（一）	二六円	—人	—円	六人（一）	二六円	—人	—円	七五人	五〇五円	七五人	五〇五円
鹿兒島	二四三（四四）	五、〇三六	六四（三）	五、六五六	三二七（四七）	一〇、六九三	一五（一）	七二	—人	—円	一五（一）	七二	—人	—円	一四九	九二一	一四九	九二一
沖繩	四（六）	一、〇九九	一（一）	七三	四（七）	一、一七二	二	六	—人	—円	二	六	—人	—円	三三	一三六	三三	一三六
計	三三、一三一（八〇、〇〇）	三〇六、三四四	一一、五七七（一〇、〇三三）	五三二、三六三	三四、七〇八（八、〇三三）	三三六、六〇六	三、〇三五（一三八）	九、二〇〇	三四一（三三）	一、八八四	三、二七六（四五九）	二、〇八四	二七六	一、七二九	八、三一三	四九、八五六	八、五八九	五一、五九五

被救護者種類別	醫療 實人員	醫療 割合	助産 實人員	助産 割合	埋葬 實人員	埋葬 割合
六十五歳以上ノ老衰者	四、一五五人	三%	一人	—%	三、二五三人	三八%
十三歳以下ノ幼者	四、四九三	一四	—	—	一、四九	九
妊産婦	八五	—	二、二七六	一〇〇	六	—
不具廢疾者	一、四二	四	—	—	二七八	三
疾病傷痍者	三、四六六	六四	—	—	四、〇〇四	四七
精神薄弱者及身體虛弱者	二、〇二九	六	—	—	二八九	三
幼兒哺育ノ母	一九	—	—	—	二	—
計	三四、七〇八	一〇〇	二、二七六	一〇〇	八、五八九	一〇〇

四、時局匡救醫療救護狀況

政府の行ふ救療事業中其の被救護人員及費用に於て時局匡救醫療救護事業が最大部分を占める。本事業は昭和七年度より三ヶ年計畫を以て實施せられたるものであるが、其の後逐年要救護者數の著増せると、本事業に代るべき施設なき爲之を卒然廢止するは其の影響する所至大なるに鑑み、昭和十年度以降も引續き實施されて居るのである。而して之が實施方法は道府縣に於て直接取扱ふものと濟生會を通じて行はしむるものとあり、委託診療、出張診療、巡回診療其の他の方法を以て行はれる。其の内容に於ては救護法に依る救療と實質上何等の差異がないのである。

時局匡救醫療救護取扱患者數調（昭和九年度）衞生局調査

種別	道府縣ニテ直接取扱ヒタルモノ	濟生會ヲ通ジテ取扱ヒタルモノ	計
委託診療	一五〇、五五九人	二六四、二九五人	四一四、八五四人

種別	道府縣ニテ直接取扱ヒタルモノ	濟生會ヲ通シテ取扱ヒタルモノ	計
共濟組合ノ診療	一〇八、六九八人	四二、八一五人	一五一、五一四人
同上ノ診療	二八一、〇一一	六三、〇四〇	三四四、〇五一
他ノ診療	九、〇四六	五四、五五七	六三、六〇三
計	五四九、三一五	四二四、七〇七	九七四、〇二二
內譯 入院診療	五一一、八二七	三九一、〇五七	九〇二、八八四
內譯 往診	三一、二七七	二一、〇二八	五二、三〇五
內譯 外來	六、二一一	一二、六二二	一八、八三三

時局匡救醫療救護取扱患者年齡別（昭和九年度）衛生局調査

年齡	男	女	計
一歲未滿	一一、一五二人	一〇、八九九人	二二、〇五一人
一歲以上五歲未滿	五〇、三〇六	四五、四七八	九五、七八四
五歲以上十歲未滿	四五、六七四	四二、八八五	八八、五五九
十歲以上十五歲未滿	四九、九五〇	五〇、四三一	一〇〇、三八一
十五歲以上二十歲未滿	三九、二四三	三七、二九六	七六、五三九
二十歲以上三十歲未滿	五五、二〇八	六〇、二七二	一一五、四八〇
三十歲以上四十歲未滿	六〇、〇四五	七一、八八八	一三一、九三三
四十歲以上五十歲未滿	五九、八七七	六六、五二八	一二六、四〇五

道府縣別時局匡救醫療救護件數調（昭和九年度）衛生局調査

道府縣別	患者數	治療日數	道府縣別	患者數	治療日數
北海道	四二、六六〇人	五〇三、二四三日	三重	三六、六〇人	四四、〇〇一日
東京都	八七、一八八	一三〇、九二二	愛知	一三、〇二九	一四七、九二八
神奈川	三二、七〇〇	一四四、〇一〇	岡山	八、三一八	一四五、五八〇
大阪	二二、七三三	四三、二五〇	滋賀	五、三三〇	六六、八一四
兵庫	三一、六七四	二九、九二二	岐阜	九、二九二	八七、七三三
新潟	一四、二三三	二八、五八八	長野	二六、〇一三	二六、三二六
埼玉	七、六九九	一四二、六三五	福井	一三、一二一	四七、九六〇
群馬	一三、六七四	三六、二〇六	宮城	一二、一四四	一四一、五六六
千葉	一五、一九九	三四、四四六	岩手	四、一五〇	四六、八八八
茨城	一三、四一三	三六、九九二	島根	一三、一四四	一一一、八二五
栃木	一五、四六六	一九、八五〇	鳥取	一一、一九九	一〇一、九三三
奈良	八、四一四	一四、七一七	福岡	六、〇一九	九、一〇九

道府縣別	患者數	治療日數	道府縣別	患者數	治療日數
石川	八、三〇二人	一三九、五三一月	愛媛	四、三六五人	三七、五九三月
富山	二四、二八二	一七四、四四六	高知	一、八五〇	八三、五二三
鳥取	四、五九一	九七、二七七	福岡	二一、六二八	四二一、一八四
島根	八、七七五	一五〇、七〇八	大分	一八、五三九	二五四、七八八
岡山	五三、三三四	一四九、七一四	佐賀	四、〇三七	八一、三二七
廣島	一六、八一七	三〇四、〇一九	熊本	七、一〇二	二〇五、四七九
山口	七、六三四	一八六、三〇七	宮崎	七、二九九	六三、七六八
和歌山	七、一九一	九三、三〇四	鹿兒島	三五、二七六	七四五、七六六
德島	四、八三四	一四七、八三九	沖繩	九、九八二	六〇、五二一
香川	三、〇八七	一六〇、一九九	合計	九七四、〇二三	二一、五五一、六二三

備考　平均一患者の治療日數一一・九日となる

五、濟生會救療事業概況

明治四十四年御內帑金を仰ぎて設立せられたる恩賜財團濟生會は全國に亘り施藥救療の事業を遂行せんとするもので、其の規模に於て獨り私設救療事業の泰斗たるのみならず、之が恩惠に浴する患者數に於ても救護法に依る救療の遙かに及ばざる所である。之が實施方法は、東京市(舊市域)に於けるものは濟生會之を直營し、其の他の道府縣に於けるものは勅令に基き內務大臣に委囑せられ、地方長官之を行ふ。但し濟生會が特定の地方に特設機關を置きて施療に從事せるものもある。濟生會及地方長官は病院、結核療養所、診療所、診療班等を設け又は公私立病院、開業醫師、藥劑師、產婆等に委託して適宜診療を行ふのである。內務省の行ふ時局匡救醫療救護も其の一部を濟生會を通じて道府縣に亘り行はしむるものであるが、左記諸表中には此の分は含まない。又實費を以て受療せる患者に付ても之を除外したること勿論である。

濟生會救療患者數調　(昭和九年度)　濟生會救療患者統計

種別	男	女	計
外來患者	一三二、九八〇人	一三六、二七七人	二六九、二五七人
入院患者	五、六〇三	五、三〇七	一〇、九一〇
合計	一三八、五八三	一四一、五八四	二八〇、一六七

濟生會救療患者年齡別　(昭和九年度)　濟生會救療患者統計

年齡階級	人員	割合	年齡階級	人員	割合
一歲未滿	九、〇四二人	四%	三十歲以上四十歲未滿	三七、五七三人	一五%
一歲以上五歲未滿	二八、九二一	一五	四十歲以上五十歲未滿	二九、六七四	一二
五歲以上十歲未滿	二六、六七四	一〇	五十歲以上六十歲未滿	二三、二五七	九
十歲以上十五歲未滿	一九、六一三	八	六十歲以上	一九、二四〇	七
十五歲以上二十歲未滿	一六、八六二	六	計	二五七、一八〇	一〇〇
二十歲以上三十歲未滿	三六、二三六	一四			

備考　本表は全患者に付調査したるものに非ず